

# 窃盗犯顔が見えない特性悪用

# 盗難カーナビ ネット転売増

## 出品数 4年で36倍



福岡市内のあちこちの駐車場で7月、一晩にカーナビ計70台が盗まれた事件で、被害品の一部がインターネットのオークションに出品されていたことが福岡県警捜査関係者への取材で分かった。県警は出品者を特定したが、犯行には関わっておらず、転売が繰り返されて流通経路も分からなかった。全国のカーナビ窃盗被害は年に3万5千件ほどで、地デジ移行に伴い増加傾向。ネットオークションに出される窃盗被害品の半数近くをカーナビが占める。顔を合わせず転売できるネットの特性を悪用した窃盗団の姿が見え隠れする。

福岡市の男性は7月中旬、ネットオークションに見覚えのあるカーナビを見つけた。「俺のものじゃないか」。盗まれて1週間後のことだった。県警は関西の出品者を特定し福岡市で盗まれたものと確認。ところが、出品者もオークションで購入・転売しており盗品と知らなかったという。窃盗犯にはさかのほれなかった。

7月上旬の事件は、車の窓ガラスを割ってカーナビを盗む手口で一晩に70台が被害に遭った。直後にオークションに流れた実際の良さから、窃盗役や出品役を分担した窃盗団の犯行とみて県警は捜査する。

県警は、質入れすると身分証や製品番号の確認で足が付きやすいことから、顔を合わせないネットオークションが悪用されたとみる。捜査関係者は「マネーロンダリング（資金洗浄）ならぬ、盗品ロンダリング」。捜査は難しい」と漏らす。

警察庁によると、2008年にネットオークションへの出品が確認された盗品カーナビは1239台。04年の34台から約36倍にも増えた。「氷山の一角。盗品と気付かず売買されており、その後

は、7月に完全移行した地デジ対応機種への需要もありそうだ。日本損害保険協会によると、この1年は新車の被害が増え、おり「地デジ対応機種がターゲットの可能性が高い」という。あるリサイクル店は「地デジ対応の中古品は割安で人気がある。品薄で転売が容易なため狙われやすいようだ」とみる。

車外から見えるカーナビは、窃盗犯の「効率的な犯行」を可能にする。「窓からカーナビがあるかを確認し、取り外しも簡単だった」。別の窃盗容疑で逮捕された男は、こう供述したという。損害保険協会は被害対策として①カバーを掛ける②脱着式のものを取り外す③盗難防止ネジで固定する④盗品番号を控えておく⑤発見後に手元に戻ることがある。

オークションの利用者は盗品と知らずに売買しても罪に問われないが、本来の所有者から返還請求される可能性はある。捜査幹部は「リスクがあることを納得し、オークションには自己責任で参加するしかない」と警告する。

（伊藤嘉孝）

（伊藤嘉孝）